

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 地域でくらす会 いくのさん家	理事長	井上徹	法人・事業所の 特徴	法人の理念 <ul style="list-style-type: none"> ・関係性こそ、その人らしさ ・どう生きたいか、に立ち返る ・ひとりの支援は、地域を変える この理念をもとに、高齢者が自分らしく生活できるよう支援していきたい。そのために住み慣れた地域での社会生活が孤立してしまわないように信頼関係を作り、関係を深めていきたい。施設の中で支援をするだけでなく、家族や地域・医療など本人を取り巻く様々な関わりが途切れてしまわないように努力する。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 大郷いくのさん家	管理者	瀧村 篤		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	3人	1人	0人	0人	0人	1人	1人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の計画と同様に評価はまとめて、分かりやすい表現を使い、事前に評価について説明をする。 ・推進会議で改善計画の進捗状況について報告する。 ・管理者は、事業所の職員が外部の研修に参加出来るように情報を提供すると共に勤務を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲が感じられて良いと思います。 ・あんまりきちんとできんのが本当だと思いますよ。でもそのうち段々とまとまっていくものです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・改善計画の中に送迎や訪問した時の時間を利用して、担当者がつきに1回話をする機会をつくるとありますが、本当にできるのでしょうか？何かのついでではなく、話をする機会としての訪問する時間をつくらないといけないと思います。 ・研修に参加した人が会議で発表するというのは伝達講習のことでしょうか？またそれによって職員全体のスキルアップを図るということでしょうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の職員が、利用者さんの暮らしぶりや生活暦、社会資源を知る為に訪問する時間を毎月1回以上つくる。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の場所をチラシ等で周知する。場所を伝えるだけでなく、入りやすいように、行事に招待したり、地域行事に積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今から建物を変えることはできないので、入りやすい人間関係を築いていかななくてはいけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今から建物を変えることはできないので、入りやすい人間関係を築いていかななくてはいけない。 ・入りやすくなる工夫はかंगाえていますか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・入りやすいと思ってもらえるように、行事に招待したり、地域の行事にもっと参加して人間関係を築く。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事に参画できるようにまずは行事に参加する。 ・介護相談ができる場所であることや普段の活動を伝えるために、地図入りの広報誌作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・分からない、という意見も多くありました。 ・名前を知っている人が増えたと思いますが、場所はまだ知らない人が多いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にある病院で介護相談窓口として活動してみる。 ・地域と関わりが強い団体と一緒に活動してみるのはどうですか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と繋がりが強い団体と協働し、地域貢献できることを考える。 ・地域にある病院で介護相談窓口を定期的に開設する。

	<p>を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事に参加する時は、“いくのさん家”の職員だと分かるように目印をつけるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括を会場にした認知症カフェでレクを提供している事業所もある。参考にしてみてもどうか？ 	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者さんの個別のケースに応じて、近所の方やとなり組福祉員さんなどに声掛けをお願いすることで、地域の方と一緒にあって利用者さんの暮らしを支えられるように支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分からない、という意見もおおくありました。 ・公民館祭への出展で活動の一端を見る事が出来ました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出向いていく地域というものがどういう成り立ちなのか、どういうものなのかを把握しておかないといけないと思います。部落ごとの歴史を頭に入れておくとも良いと思います。 ・愛の訪問協力員、隣組福祉員は地域毎の社会福祉協議会の会長さんが把握しておられます。 	<p>(前回の改善計画を継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者さんの個別のケースに応じて、近所の方やとなり組福祉員さんなどに声掛けをお願いすることで、地域の方と一緒にあって利用者さんの暮らしを支えられるように支援をする。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の改善計画を継続して、運営推進会議を利用者さんの支援や地域課題の解決に活かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分からない、という意見も多くありました。 ・地域の心配な方の検討というのは個人情報のあるので難しい面もあるが、専門知識を持つ人が集まる会なので、活用してはどうか？と思います。もっと気軽に話せたら良いと思います。 ・行政の立場からの話を聞ける良い機会になっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の初期段階から関わるとい話がありましたが、色々な人がおられるので、対応が難しい事もあります。隠したいという気持ちの家庭もあります。 ・地域の心配な方の検討というのは個人情報のあるので難しい面もあるが、専門知識を持つ人が集まる会なので、活用してはどうか？と思います。もっと気軽に話せたら良いと思います。 	<p>(前回の改善計画を継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を利用者さんの支援や地域課題の解決に活かせるようにする。 ・運営推進会議で事例検討を通してもっと色々な方と関れるようにする。 ・利用者さんの地域の方への働きかけを継続する。(見守りや異変があった時に連絡をしてもらうように協力をお願いします)
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・防災計画を見直して、被災時に避難できない場合の行動マニュアルを作成を検討する。 ・色々な人に防災訓練に参加してもらえようように企画・実行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の日時を伝えて、参加出来る人にきてもらうようにしてはどうか？ ・防災計画は所定の位置にあり、自由に閲覧できます。 ・近隣の団体と災害時の協力について約束し、指定避難所が開設されるまで、一時避難所として空きスペースを貸していただける事になりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建物が災害時に役立つ事があっても、実際はケアが必要な人を何人も抱えている状態なので頼りにするのは難しいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練、避難訓練の日時を伝えて、運営推進会議のメンバーや地域に住んでおられる方などの参加を募る。

